

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	人間コミュニケーション学実験		
英文授業科目名	Engineering Seminar for Human Communications		
開講年度	2004年度	開講年次	3年次
開講学期	5, 6学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	4
科目区分	専門科目-専門共通科目-必修科目		
開講学科・専攻	人間コミュニケーション学科		
担当教官名	中田 良平ほか		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ

【主題および達成目標】
<p>実験は、原則として、1-2年次でなされた人間コミュニケーション学科の学科目 の講義内容を踏まえて行う。人間コミュニケーション学科として必要最小限の実験内 容を準備している。実験の目的は抽象的な講義内容を具体化し、講義での学習内容の 一層の理解を助けると共に、講義で学習できなかった事柄を補完し、体感的に習う機 会も兼ねている。実験内容は合意形成、メディア、心理、電気基礎、信号と画像の処 理、環境である。実験を通して、種々の仕事を行うに当たっての段取、手法、デー タ の 収集法、解析と分析法、報告書の書きかたを学ぶことも目的のひとつである。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
<p>心理、メディア、数学、物理（実験を含む）、化学（実験を含む）、電気関係科目。特に、物理と化学関係の実験を必ず履修し、実験方法、結果の取扱い、考察を含めた レポートの書き方を修得したものと して実験を開始するので留意すること。</p>

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

【教科書等】
<p>使用しない。予め、実験指導書を配布する。レポートと感想文の違いを理解するた めに、レポートの書き方について本を読んでおくこと。</p>

電気通信大学 平成16年度シラバス

【授業内容とその進め方】

5 学期（4 テーマで行う）（収容人数は 48 名）

実験ガイダンス	1 日間（前期の最初の実験時間に実施）
合意形成の展開と収束	3 日間（12 名程度）
認知実験	3 日間（12 名程度）
メディア分析実験	3 日間（12 名程度）
電気基礎	3 日間（12 名程度）
試験又は追実験	1 日間

6 学期（3 テーマで行う）（収容人数は 45 名程度）

実験ガイダンス	1 日間（後期の最初の実験時間中に実施）
メディア制作実験	4 日間（15 名程度）
信号と画像の処理	4 日間（15 名程度）
環境計測実験	4 日間（15 名程度）
試験又は追実験	1 日間

学生名と実験項目の対応表等は実験ガイダンス時に配布し、説明する。欠席しない こと。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

[成績評価]

成績判定は 5 学期と 6 学期の実験を通して行なう。成績評価の内容は、一日（授業 時間で 2 駒に相当）の実験について

平常点（遅刻、早退、実験態度等）として 4 点

レポート点として 4 点

レポート提出の早遅として 2 点の計 10 点とする

実験の総点数は 10 点掛ける実験日数とする。全てのレポートを提出し、総点数の 6 割以上を得点していれば単位が得られる。総点数が 6 割以上であっても、レポート 未提出分があれば単位を保留（成績報告書では欠）し、翌年度に未提出分の実験を行 ないレポートを提出する。全てのレポートを提出していても総点数が 6 割未満の場合 は翌年度に全ての実験を行ない再度レポートを提出することになる。なお、単位取得 者の中で、不可、可、良、優の判定基準は

不可は総点数で 60% 未満

可は 60-69%

良は 70-79%

優は 80% 以上

とする。

【オフィスアワー：授業相談】

実験指導員により異なるので、予め確認して相談すること。

電気通信大学 平成16年度シラバス

【学生へのメッセージ】

人間コミュニケーション学実験は幅広い分野を網羅しているが、1-2年次の授業と実験を真面目に行なうことが肝心である。

【その他】

上の担当者欄に書ききれないのでここに書きます。

前期：広瀬、兼子、坂本、福田、中田、永井、中嶋、本村*、青木*、仙北谷*

後期：児玉、田中、チュウ、中田、永井、本村*、青木*、仙北谷*、金子*

*は技術部職員